



あいかわ



農業委員会だより

第79号

令和3年8月15日発行

発行：愛川町農業委員会

編集：あいかわ農業委員会だより編集委員会

愛川町角田251-1

Tel 285-2111(代)



アイガモ農法で、農薬を使わず、水田の雑草をシャットアウト！

紙面紹介

- 2面 農業委員会のごきき・農地募集しています!!
- 3面 有機農業で大事なものの・有機農業への思い
- 4面 進出企業紹介(はーとらる農園愛川)・年金

日頃から農業委員会の活動に、深いご理解、ご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

ご好評をいただいております「あいかわ準農家制度」につきましては、二年が経過いたしました。現在四十名を超える準農家が登録をされており、耕作を^{たしな}嗜んでおられます。これもひとえに、快く農地をお貸しいただいている皆様のおかげであります。お心遣い心より感謝申し上げます。

さて、新型コロナウイルスの「まん延防止等重点措置」の適用延長や世界中で行われているワクチン接種、さらには、4度目の緊急事態宣言が発出された東京で、オリンピック・パラリンピックが開催されるなど、今までに経験したことがない極めて異例な時期を過ごしているものと感じております。

このような現状におきましても、私たち農業委員会といたしましては、引き続き感染防止対策を講じながら、地域に密着した活動を推進してまいりたいと考えておりますので、より一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



農業委員会のうごき

農地利用最適化の推進に関する県への意見・要望

農業委員会は、農地等利用最適化の推進及び農林業施策・予算に関する意見・要望を、県に行っております。

本年度も令和4年度に向け、県への意見・要望を提出しました。主なものは次のとおりです。

1 土地（農地）利用の見直しについて

◆県土砂条例の強化や農地法の運用基準について、見直しを検討すること。

2 農地利用最適化推進委員定数の要件緩和について

◆地域の実情に応じたきめ細やかな現場活動を推進するため、農地面積100ヘクタールに1人と規定されている農地利用最適化推進委員の定数の要件緩和を国に働きかけること。

3 所有者不在農地荒廃対策について

◆所有者不在農地の荒廃対策については、耕作希望者が現れるまで、耕作可能な農地として維持管理する仕組み作りについて国に働きかけること。

4 農業委員会法5年後見直しについて

◆期限が令和3年3月末までとされていることから、速やかな見直しを行うこと。

農地を募集しています！！

農地の管理にお困りではないですか？ ～農地の貸し出しをお願いします！～



ご利用されていない農地や、今後の予定がない農地は、新規就農者やあいかわ準農家が大切に耕作いたしますので、貸出にご協力ください。

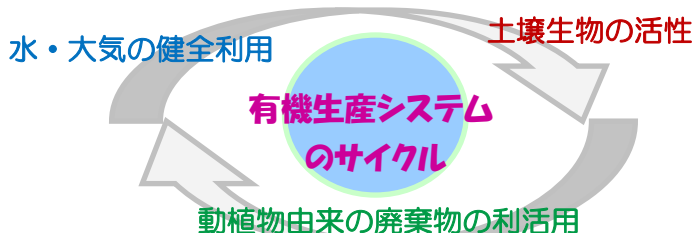
お問い合わせ先は 農業委員会事務局 電話285-2111内線3542まで

★愛川町がまん延防止等重点措置区域の対象になったことを受けまして、令和3年度の「農林業関係者との座談会」を中止させていただくことになりました。皆様には大変ご迷惑をおかけいたしますが、ご了承いただきますようお願い申し上げます。



特集「有機農業で大事なものは？」

有機農業とは、化学的に合成された肥料及び農薬を使用しないこと等を基本として、農業生産に由来する環境への負荷をできる限り低減した方法を用いて行われる農業といわれています。免疫力がついた病気に強い作物を育てるには、もともとなる**土壌**が大切になります。害虫や病原菌が少ない健全な**土壌**は、水・大気の健全な利用や動植物由来の廃棄物の利活用、また土壌生物（微生物、土壌動物）の活性などを通して、長期的に**土壌**の肥沃化を維持する「**有機生産システム**」を機能させることで、出来上がるともいわれています。健全な**土壌**の性質に由来した、農地生産力の発揮が、農業において最も大事ではないかと考えています。



新規就農者やあいかわ
準農家で「**有機農業や
自然農法**」を志向され
る方が増えています。



有機農業を行っている町農業委員に、有機農業を取り組むきっかけや思いを聞いてみました。

「有機農業に魅せられて」 M・S委員



ぶどうの無農薬栽培に挑戦し続けて三十年余が経ちました。毎年新たな課題にぶつかりながら、今もチャレンジを続けています。

三十数年前、或る講演会での青森の有機栽培りんご農家の御主人の話が、今でも心に残っています。曰く「私も最初は慣行農法でりんごを栽培していました。誰よりも良い物を作ろうと、人一倍熱心に農薬散布をしていました。そのお陰で共進会では毎年一等を獲っていました。ところが、熱心に散布していた父が癌で亡くなり、母も私も妹も次々と身体を壊してしまいました。何かが間違っている。悩み考え抜いた末に農薬散布を止めました。皆が健康で、安心して食べられる物を作ろうと決めました。・・・」

その方は、その後苦勞しながらも十年位かけてなんとか無農薬のりんご栽培に成功し、その方の後継者が今でも頑張っているそうです。私も初めの十年位は本当に苦勞しました。その後も、完成には至らず毎年いろんな失敗を繰り返しています。それでも頑張ってきたのは、良き理解者が居たからだと思っています。即ち作業を手伝ってくれるボランティアの方々、何よりも多少見栄えが悪くても、私のぶどうを購入して下さいるお客様達。

有機農業は一筋縄では行きません。ましてや地球温暖化に伴う異常気象のせいで年々栽培が難しくなってきました。それでも、一つひとつの課題と向き合いながら努力し続けるしか方策はないと思います。近年愛川町でも若手の有機農業・自然農法を志す人が増えてきて、心強く感ずるようになりました。消費者の安心・安全志向も一段と高まっています。

これからも彼らの為に、消費者の為に微力を尽くして行けたらと思っています。

※表紙の「アイガモ農法」ですが、合鴨が田んぼの中を行き来し、田んぼの土をかき回すことで雑草が生えにくくなるそうです。また、害虫なども食べてくれるようで、一石二鳥ですね。



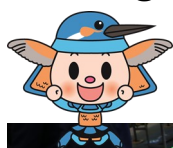
町内進出企業紹介（はーとふる農園愛川）



角田の峰に新しい農園が出来ました。「はーとふる農園愛川」です。今年の4月20日にオープンしました。

現在、約3000㎡の敷地において、ビニールハウス14棟の内6棟で養液栽培を行っております。開所式には、町長や町議会議長、農業委員会会長などが出席しました。

ビニールハウス内では、植物6種類から8種類を、障がい者がメインで育てています。培地は砂であり、特徴としては無機物なので、雑草が生えないそうです。また、連作障害を防ぐため、培地の砂を外に出して水で洗う作業をしているとのことでした。農薬は木酢液など、天然系のものを使用しています。障がい者が手作業しやすい工夫が随所に散りばめられておりまして。現在は20名（町内者3名）が作業しておりますが、



100名を目指していますとのこと。

この農園は、仮設リース業を営む企業が運営をしておりまして、30階建てのビルにも対応できる耐久性がある仮設資材が遊休資材となっていたことから、ビニールハウスの骨組みに採用したとのこと。また、ビニールハウス自体も、全て自社製造とのことでありました。この事業は、ニーズが高まってきているので、農地が借りられれば、広げていきたいですとのこと。今後も期待できそうです。

農業者年金PRコーナー

- ①農業者なら誰でも入れる「終身年金」
- ②一定の要件を満たす方には、月額最大
1万円の保険料補助
- ③保険料は全額社会保険料控除の対象

知って得する農業者年金！

委員	委員	委員	委員	委員	副委員長	委員長	編集委員
加藤 一男	花上 満	諏訪部 衛人	榎本 計雅	熊坂 博	落合 貢	高木 正徳	